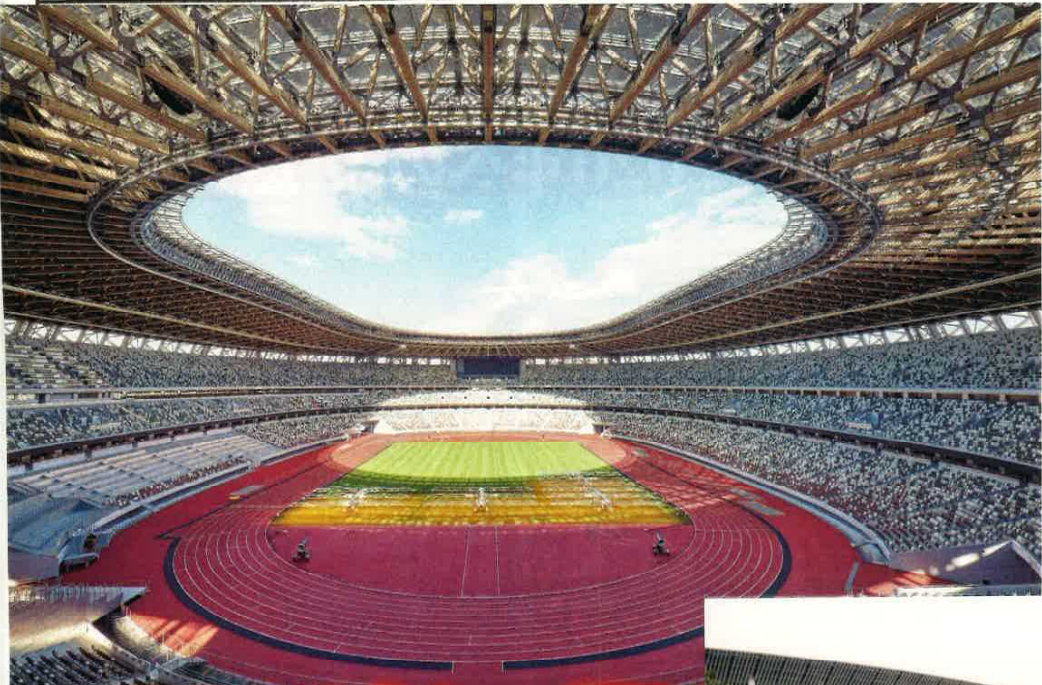


環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878



2020年の幕開け
 国立競技場がふいに竣工 はいはカウタウン いざ、東京五輪へ！

1964年以來56年ぶりの開催となる第32回オリンピック競技大会東京大会は7月24日〜8月9日までの15日間、45会場での競技が種目が行なわれる。陸上競技は7月31日〜8月9日までの15日間(10日間)の日経でメイン会場であり日本スポーツ界の聖地である「国立競技場」



で行なわれる(1)種目は札幌(実施)

2019/10/19

スタジアムは約6万人収容で「国をぐるりと覆う」屋根や外郭には鉄骨とカラマンやスギなどの木材を組み合わせた「ハイブリッド構造」が採用され「社」の「スチール」のコンセプトに「さわしい」がコンセプト。

神宮なら木だ
 隅研吾は閃いた
 そのまゝ設計図面にした。
 その閃は社と庄が調和する
 みたひなある種日本の
 五重塔の断面形だとい
 なるものかよ。
 建築は建物をつくると同時に
 人と人との関係もつくる。

この国立競技場は終つたあとでも、大正建築では神宮の社に深しい場所が「できる」ことと大正に街づくりあり方としても重要な場所になる。

もちろん内側は大正主役は選手や観客であり試合です。外側でも試みるのはもう一つの顔とつらなけれどいけな、軒庇をつくらせたり階段に空の社という遊歩道をつくったりしてある。隅研吾氏が代表作となるでしょう。

伝統文化を継承し、自然環境に調和する「負ける建築」が勝ち続けるのは何故か？

隅研吾氏(愛知)
 ・面口屋東山店
 ・御園座
 ・慈善培用金庫
 ・大府南の氏、パキガヤ

空気の流れて競技場の裏面気も快適さもある。野比には「さや」でできた縦格子が「さや」に近いです。その素材も全国から集めた47都道府県から集めた。集めたら太平洋側と日本海側を比べると「さや」の色が違ふ。向から産地ごとくまごめてみる。



2019/10/19

